

實相寺 花園會報

令和五年
十月九日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第174号

桃嶺和尚七回忌にお供えした漢詩

桃嶺和尚超祥忌拙語

桃嶺還郷已七年

爛柴一片奉真前

葛藤嗣統超祥忌

實相無常自在禪

右 文匡九拜

定中昭鑑

桃嶺郷とうれいきょうに還かえること已すでに七年

(桃嶺和尚が亡くなり早七年がたち)

爛柴らんし一片いっぺん真前まへに奉ほうず

(一片のお香を真前にお供えします)

葛藤かつとうを嗣統しぞくす超祥ちようしやう忌

(先師の葛藤を継ぐ思いも新たにした七回忌)

實相は無常にして自在の禪

(真実の姿に決まった型はなく、状況に応じ

て自由自在に変化してこそ禪である)

「桃嶺和尚七回忌と達磨忌」

去る9月30日午後3時より部内寺院7名と縁故寺院3名、花園会からは檀家総代でもある会長・副会長3名、及び親類3名を招いて桃嶺和尚七回忌の宿忌(前晚法要)を開催しました。

さらに翌10月1日午前10時からは会員の皆様をご案内して、達磨忌・及び秋季総供養、併せて先住



七回忌の半齋を厳修したところ、おかげさまで36名の皆様のお参りを頂き、無事に円成することが出来ました。これも偏に皆様のお力添えの賜物と御礼申し上げます。なお桃嶺和尚七回忌に際しては、当日欠席の方も含め、多くの方から真前に御供え等を頂戴しましたこと、紙面を借りて重ねて御礼申し上げます。有難うございました。

「これからのお寺の役割とは④」
 先ずは諸般の都合で、会報の発行が遅れたことをお詫び致します。

さてお盆明けにインターネットTVで文化人のひろゆきさんがアフリカ大陸を横断する番組を見たのですが、特に印象に残ったのが世界最貧国でもあるマラウイの旅でした。

マラウイの平均年収は現在日本円で8万9千円だそうです。「人の親切度」は世界6位です。人々はみんな家族思いで親切ですし、旅の途中バスが事故を起こして立ち往生するのですが、乗客は誰一人として怒ることも無く、誰もが「仕方ない、乗せてくれる車に分乗するしかない」と淡々と状況を受け入れるのです。日本では到底考えられないことです。

勿論マラウイにもお金持ちはいて、国際的なコンサルもしているホテルのオーナーはベンツに乗り、一日600米ドルも稼いでるそうですが、では貧しい一般の人達が不幸なのかと言えば、決してそうでも無く、とても幸せそうなのです。特にひろゆきさんがマラウイの人々を「格差は激しいが、国全体でお金を稼ごうとしていない。別の価値観で生きている」と話していたのがとても印象的でした。

考えてみれば、世界中で社会的な階級がない国って、日本以外どこにもありません。ヨーロッパには今でも貴族が存在しますし、アメリカにだって東海岸のエスタブリッシュメントなど歴然とした階級格差があります。インドにはカースト制度がありますし、中国

にだって共産党の序列があります。

最近日本は格差社会になったと言われますが、むしろ一億総中流といわれた少し前の日本の方が、歴史的にも世界的にも類がない、特殊な状態だっただけなのではないでしょうか。

そう考えた時、近年頻発している無差別殺傷事件の背景には、「全ての人間は平等なのだから、人生も平等に幸福であるべきだ」という人権に対する誤解があるのでは無いかと感じました。

「柳は緑、花は紅」という禅語があ

ります。植物の命は皆等しく尊いものですが、柳は青々としているし、梅は紅い花を綻ばせている。異なるそれぞれの色や姿がそのまま平等な真理の姿である、という意味です。

私達の命も同様です。大人も子供も、

男も女も、お金持ちも貧しい人も皆等しく平等な命を頂いています。人生は皆それぞれです。世が高い人もいれば、低い人もいます。それが個性であり、他人とは違うからこそお互いはかけがえの無い存在なのです。

あたり前のことですが、人生は誰から平等に与えられるものではなく、自らで切り拓いていくものです。そうした意識や自覚が、現在の日本人には欠けているのではないかと感じました。かつての日本では旧家を中心に「分相応の修養」という考え方があったと思います。今後、格差の拡大とともに先祖供養が廃れていくのは社会的趨勢ですが、修養の一つとして宗教的情操を育む場というのも、お寺の持つ普遍的な役割だと考えます。